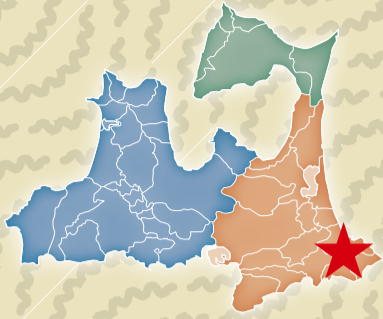


# 史跡 長七谷地貝塚 (八戸市)



東北地方においては数少ない縄文時代早期の貝塚です。貝塚からは、魚、鳥、獣を捕獲するための道具も多く出土し、中でも縄文時代早期の漁労具は全国的に例が少なく貴重です。



## 赤御堂式土器

長七谷地貝塚を代表する土器です。底が尖った朝顔形をしており、表裏に縄文が付けられています。



## 貝塚

貝塚を構成する貝類は、ハマグリ、オオノガイが多く、内湾砂泥底を中心とした採貝活動の実態が浮かび上がりました。また、スズキ、クロダイなどの内湾性魚類やカツオなどの外湾性魚類も多く見つかり、活発な漁労の様子がうかがわれます。

発掘調査時の写真。貝塚が白く見えます。



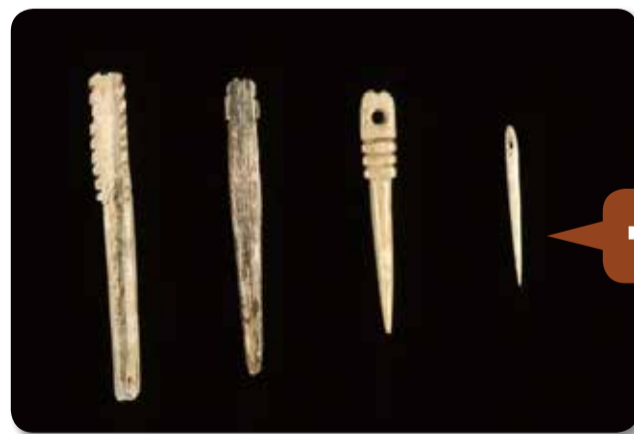
## 出土した貝類

オオノガイ(左端)は、現在の八戸には生息しないため、当時は温暖であったことが分かります。



## 骨角製漁労具

銚先(左)と組合せ式釣針(右)。こうした道具の発達が、漁労活動の本格化を示しています。



## 骨角製装身具

縫い針、ヘアピンなどに加工した骨角製品も出土しています。



## 八戸市博物館

出土品や貝層の断面は、八戸市博物館に展示されています。



層の剥ぎ取り断面

## DATA 基本情報

- 見学施設** 八戸市博物館 〒039-1166 八戸市大字根城字東構 35-1
- 開館時間** 9:00～17:00
- 休館日** 月曜日(第一月曜日、祝日・振替休日を除く)  
祝日・振替休日の翌日(土・日曜日、祝日を除く)、年末年始
- 見学料金** 大人250円、高校・大学生150円、小・中学生50円
- 注意** JR八戸駅から車で15分

詳しい情報は [こちらから](#) →

